

第 2 回コンパクトなまちづくり専門小委員会 資料の概要

資料 2 - 3 参考資料

1. 北九州市の都市の現状等

- ・北九州市の都市政策の経緯
(位置、北九州市の成り立ち、都市政策の変遷、北九州市都市計画マスタープランの概要、まちづくりの取り組み状況、国・県の動向、本市の取り組みの方向)
- ・北九州市の都市構造の現状等
(人口、土地利用、都市交通、経済活動、災害、財政将来人口からみた都市構造)

・第 1 回専門委員会資料の修正版
・年少者や高齢者の即地的な動向や空き家の状況に関する資料を追加

資料 2 - 2 本編資料

1. 北九州市の都市構造の特性

【P 1 ~ 2】

- 主要交通軸に沿って高密度に形成された既成市街地と薄く広がった郊外部
- 階層をもった複数の拠点が存在
- 郊外部においてもサービス施設が立地し、交通拠点となっている地区も存在
- 公共交通の利便性が高いものの、自動車依存が進行
- 旧来からの市街地を中心に、人口、生活利便施設が集積し、公共交通が特に便利な地域が形成
- 産業の受け皿は市街地から離れた地区に存在

2. 北九州市における都市構造上の課題と対応

【P 3】

- 地域活力の低下
 - 生活利便性の高い区域への居住誘導による人口密度の維持
 - 人口減少に対応した生活サービス施設の適切な再配置
- 公共交通の衰退
 - 公共交通による移動の促進、利便性の向上、ネットワークの維持・存続
 - 公共交通軸周辺への居住の誘導
- 財政悪化
 - 持続可能な都市経営のための行政コストのマネジメント
- 防災面での安全性の低下
 - 斜面地から生活利便性の高い平地へ居住を誘導
- 拠点機能の低下
 - 拠点への都市機能の誘導

3. 都市形成の方向性

【P 4 ~】

■目指すべき都市構造のイメージ【P 4 ~ 8】

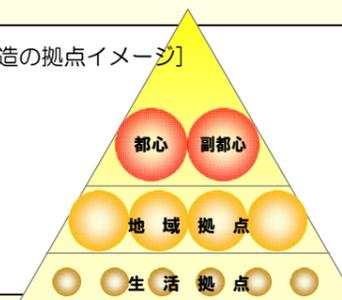
既存の複数の拠点の機能や、交通利便性を生かしつつ、住宅や生活支援施設がコンパクトに集約した都市構造がふさわしい「階層拠点+交通網ストックを生かしたコンパクトな都市構造」

- 集約型の都市構造の形成
- 階層構造の拠点形成
- 交通網ストックを生かした交通軸形成

○集約型の都市構造を形成することによるメリット
(行政サービスを効率的に提供可能、賑わいを感じ、楽しめる場の形成(拠点)。公共交通の利便性が高い、高齢者も健康で暮らしやすい、安全に暮らせる)

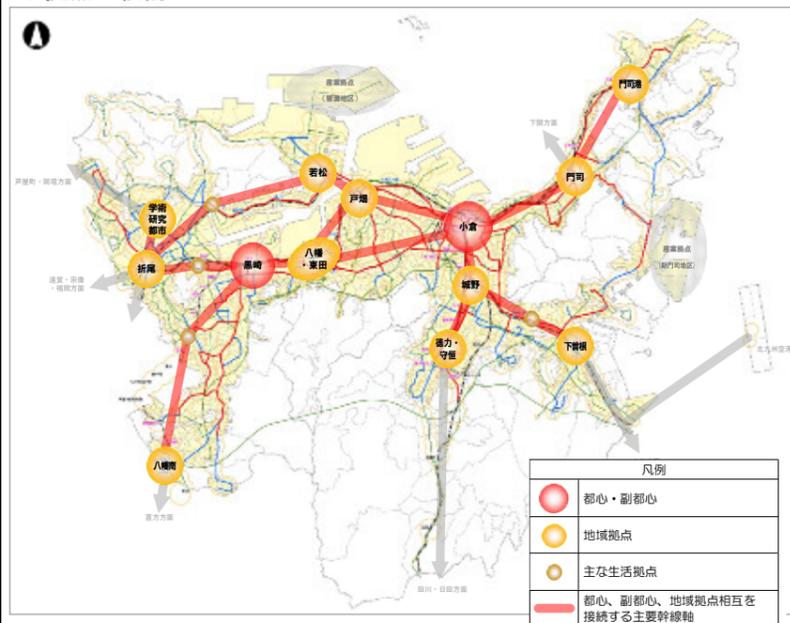
・一般的な都市構造のタイプとしては、多極ネットワーク型都市構造に近い
・核間の機能分担やヒエラルキーの形成に留意が必要

【階層構造の拠点イメージ】



■将来都市構造の検討【P 9 ~】

◆拠点の検討



- 平成 15 年に策定した都市計画マスタープランにおいて、「街なか」を重視したまちづくりに向け、拠点となる地区の選択を実施済
- 上位計画における拠点について、将来のまちづくりの方向性を検証しながら、将来の公共交通軸案も踏まえ、階層構造の拠点(案)を設定

◆都市機能誘導区域としての考え方(案)

- 都市再生特別措置法に基づく施策を展開していく拠点(都市機能誘導区域)としては地域拠点以上を想定
- 誘導を図る施設は拠点毎に検討
- 都市機能誘導区域の測地的な範囲は、上位・関連計画における位置づけ、既存の都市機能の配置状況や公共交通の利便性、法指定の状況等を踏まえ検討予定

◆街なかの検討例

- 将来的に良質な市街地(人口密度を維持)を保つ事が可能な区域を設定

